

子供もお年寄りも気軽に集える場所

NPO法人 北海道でてこいランド（津別町）

NPO法人北海道でてこいランド（以下「でてこいランド」）の中核である宿泊交流施設は、津別市街地から車で5分ほど。自然運動公園内にあり、側には津別川が流れている。周辺にはパークゴルフ場やキャンプ場、散策コース、フィールドアスレチックなどがある。

施設の前庭で、子供たちがバドミントンに興じている。その様子などから、障がいを持った子供なのだろうと思えたが、楽しそうに遊ぶその姿は微笑ましかった。



NPO法人北海道でてこいランドの宿泊交流施設外観

施設内に入ると、吹き抜けの開放感ある居間が広がっていた。その壁一面に宿泊者の写真や、寄せ書きが貼ってある。国際交流団やスキー少年団、高校サッカー部の合宿など。

旭川明成高校野球部は、毎年合宿でこの場所を利用しているようで、寄せ書きには「でてこいランドの方々のおかげで津別が好きになりました。来年もまた来ます」、「最高です。ごはんと弁当美味しかったです。4日間ありがとうございました」と書いてあった。

■ 2000万円超の寄付が集まる

でてこいランド事務局長の山内^{ひとし} 彬さんは、同町の町議会議員。同町の野球連盟会長や国際交流協会事務局なども務め青少年の育成に力を入れている。

「心身にハンディのある人も、ない人も、子供も大人、お年寄りも、みんな自然なかたちで出会って、気軽に集まれる場所を作りたいかったです。いわば、バリアフリーの交流の場みたいなものを提供したいと考えたのです」山内さんは、その設立理由を語る。

地元有志による建設実行委員会を1992年に設立。すぐに資金協力を呼びかけたところ、同町だけでなく全国各地から、500人以上の賛同を得た。一口1万円の寄付を頼み、合計2000万円を超える資金が集まった。なかには大口で100万円を寄付した人もいたという。

「寄付が集まり次第、少しずつ建物を造っていったのです。まずは基礎を、そして柱、屋根……、そこまで出来たのならもっと寄付を集めて次は外装を、といった具合に集まった寄付を目に見える形にして、自分たちにプレッシャーを与えていったのです」

山内さんは、笑いながら説明する。

こうして4年の歳月をかけ、1996年に敷地面積百坪、木造2階建ての宿泊施設が完成した。部屋数は8室、収容人数は35人。大人数でも対応できる大きな居間と台所が特徴であった。



山内さん(左)、白鳥さん(右)

障がい者や青少年の利用と限定し、宿泊費大人2000円、中学生以下1000円(冬季はプラス500円)と格安にしている。食事は予約制。自炊やバーベキューもでき、コンロや鍋、電子レンジなども揃っている。同パンフレットには「我が家のように使って下さい! 長期連泊も大歓迎!」と記されている。

■ 年間2000人以上が施設を利用

でてこいランドは、2006年にNPO法人としての認可を受け、それまで任意団体として運営してきたが、地域の社会福祉などに寄与する目的で「NPO法人北海道でてこいランド」とした。

2010年8月現在、運営委員は理事長の菊池徳治さん、副理事長の丸尾論さんをはじめ19人。そのメンバーで企画部門、宿泊部門、建設部門などとそれぞれ担当が決まっている。正会員は個人会員と団体会員を含め11、準会員は13人となっている。

事業としては、宿泊交流施設の運営や維持管理、スポーツ合宿への食事提供などのほか、行政や関係諸団体からの委託を受け、障がい者や高齢者などの活動支援も行っている。

2006年から始めた高齢者の給食事業は、町の福祉課からの委託事業であり、週2回、高齢者に配食している。2009年からは障がい者のデイサービス事業も行っている。昨年度(2009年)の宿泊研修事業の実績としては、年間2000人以上の利用者を誇っている。

このほか、「でてこいまつり」などのイベントも行っている。子供やお年寄りに楽しんでもらいたいと、毎年実施しており、2010年で15回目を迎えている。宿泊施設に隣接する広場で、地元中学校の吹奏楽部の音楽演奏や焼肉などを行う。2010年5月に開かれた「でてこいまつり」には、約100人が集まったという。

障がい者のデイサービス事業を担当する

白鳥幸（みゆき）さんは、障がい児を持つ親やその家族が集まっている「津別手をつなぐ育成会」のメンバーでもある。

「学校が終わってその後、5時までここで子供たちを預かるのです。自然もあって、周りで散歩できるこの環境は良いですね」と安心した表情を見せていた。

また、同事業スタッフの川瀬舞さんは20代。以前は札幌で勤めていたという。「ここで満足できる仕事があれば、生活する環境は抜群です」と話す。



2010年5月に開かれた「第15回道でこいまつり」

会員である若手農業者の町づくりグループ「つべつべGROW」の河本純吾さんは、「会合を開くときには、ここをよく利用していますよ。設備も整っていますし便利です」と語っていた。

■ 経営の安定が一番の課題

活動で苦労している点について山内さんに聞くと、

「いかに経営を安定させていくかが、一番の課題でしょう」と言い切る。

このほか、地元のイベントなどに出店して活動資金を稼いだり、会員や協力者の会費や寄付によって会を運営しているが、寄付金は年々減少してきているため、経営的には苦しい状況となっているという。「ですから、NPO法人にして町の委託事業なども請け負ったり、新しい事業を展開したりしています。その一環として、障がい者の修学旅行を請け負う事業を展開していこうと、現在検討しています。こうやって、雇用を生み出すことで、経営を安定させ、さらに若い人たちをなんとか引っ張ってきて人材を確保できれば」

山内さんは、その情熱を抑え込むかのように、あえて淡々とした調子で語っていた。

■ 連絡先

〒092-0225 網走郡津別町字共和 21 番地 21

NPO法人北海道でてこいランド

事務局長 山内 彬

TEL : 0152-76-1313 / FAX : 0152-76-3010

Email : mrs724hy@sea.plala.or.jp

URL : <http://detekoi.dosanko.org/>